

論文題目 : Contextual Influences on Chinese Language Learning Strategies Use of High-Ability Students in Singapore

著者 : Yeo Leng Leng (楊 玲玲)

学籍番号 : LD081014

## 1. 論文の目的

シンガポール文部省は『2004年報告書』<sup>1</sup>を通して華語教育に関する改革を提案した。その報告書はシンガポールの華語教育を再考するきっかけとなり、本論文を書くための背景となってきた。研究対象は特選学校 (SAP)<sup>2</sup>の一年生であって、彼らは英語と華語を第一言語として学習している。本論文はシンガポールの環境における「良い華語学習者 (Good Chinese Language Learners)」に中心を置いて、社会の要素 (social contextual factors) がどのように彼らの学習戦略 (Learning Strategies) に影響を与えるかを調査したい。言語習得戦略に関して研究するだけでなく、そこで得た結果がほかの学習者の参考にもなるように努めていく。つまり、同じ環境での習得過程を上達させたり、シンガポールでのバイリンガリズムへの理解を得たりすることである。

---

<sup>1</sup> 2004年2月には、シンガポールの文部省が華語カリキュラムと教授法検討委員会 (Chinese Language Curriculum and Pedagogy Review Committee—华文课程与教学法检讨委员会报告书) を設置した。政府はこの委員会からの提案を受け取って白書とし、2004年11月に国会での議論の対象として上程した。その白書の正式名称は、英語で “Report of the Chinese Language Curriculum and Pedagogy Review Committee”、華語で『教育部华文课程与教学法检讨委员会报告书』である。

<sup>2</sup> 正式名称は英語で “Special Assistance Plan Schools (SAP)”、華語で「特选学校」である。

## 2. 問題意識

シンガポールでの高い能力を持つ生徒達における華語学習戦略を理解するために、次の研究課題を提出する。

社会的コンテクストの要素 (social contextual factors) は、シンガポールの高い能力を持つ生徒達における華語学習戦略に対して、どのような影響を与えるであろうか。また、シンガポールの高い能力を持つ生徒達における華語学習戦略には、どのようなパターンがあるであろうか。

## 3. 論文の構成

### Chapter 1: Introduction

- 1.1 Purpose of Study
- 1.2 Brief Historical Background of Linguistic Situation in Singapore
- 1.3 Bilingualism and Bilingual Education
- 1.4 Language Shift and Singapore Chinese Language Education
- 1.5 Contribution and Significance of the Research Study

### Chapter 2: A Discussion on the Literature Review in Language Learning Strategies

- 2.1 Defining Language Learning Strategies
- 2.2 Language Learning Strategies: In Cognitive Psychological Field
- 2.3 Language Learning Strategies: In the Realm of Culture and Context
- 2.4 Language Learning Strategies: The Literature in Singapore
- 2.5 Further Exploration in the Field of Language Learning Strategies

### Chapter 3: Research Methodology

- 3.1 Research Design
- 3.2 Data Collection Procedures

## Chapter 4: Research Findings

### 4.1 Findings

## Chapter 5: Discussion and Implication.

### 5.1 Contextual Influences on Language Learning Strategies (LLS) Use

### 5.2 Patterns of LLS Use As Indicated By Qualitative Data

### 5.3 Limitations of Research Study

### 5.4 Pedagogical Implications

## Chapter 6: Conclusion

## Appendices

## Bibliography

## 4. 論文概要

シンガポールの言語政策では、英語は「第一言語」、華語・マレー語・タミル語は「母語」として規定されてきた。ただし、英語は、社会言語学でいう「第一言語」（最初に獲得した言語）というよりは、むしろ各民族の間のコミュニケーションの方法として使用されているので、いわゆる「機能言語」（functional language）と言えるだろう。一方、母語は各民族のアイデンティティ及び文化価値を表示するための「文化言語」（cultural language）の役割を担っている。

第一章では、シンガポールの言語状況に関して簡潔にその歴史的な背景を紹介した。1819年以前、シンガポールは単なる小さな漁村であり、多くの住民はマレー系であった。その後、イギリス東インド会社のスタンフォード・ラッフルズ（Sir Stamford Raffles, 1781-1826）がシンガポールを開発するにしたがい、中国系の住民が徐々に増加し、現在では多数を占める民族になったのである。2009年の統計によると、中国系・マレー系・インド系の民族は、各々74%、13%、9%を占めている。各民族の間では、英語が中立言語（neutral language）

であり、シンガポールの二言語教育制度では「第一言語」として学習される。一方、各民族の生徒たちは華語・マレー語・タミル語を母語として学習する。シンガポールの状況を理解するために、第一章ではバイリンガリズムとバイリンガル教育を論じた。そして、言語シフトの現象を通じて、英語の優位性はシンガポールの華語教育にどのような影響を与えているかという点も指摘した。また、本論文は「華語の学習戦略」に焦点を置いた。

第二章では、言語学習戦略に対する定義を論じて、特に「華語の学習戦略」の重要性を強調した。華語の学習戦略とは、学習者が言語を習得する時に使用した手順と行動のことである。早期の認知心理学 (cognitive psychological field) での先行研究から、学習戦略に与える文化的及び社会的な影響まで、シンガポールにおける先行研究も含めて提示し、それらを論じてみた。それによって、シンガポールというコンテクスト（環境）で華語を習得する事情やその意義を指摘した。

言語社会の視点から調査を取り組むため、生徒たちの言語背景を調べる必要がある。したがって、第三章は、研究方法について、研究の設計及び手順を説明した。調査で使用したアンケートには二つがあって、生徒たちの言語背景と言語学習を調べた。本論文の調査をする目的に応じるために、使用したアンケート “Strategy Inventory for Language Learning” (SILL) を少し直して言語学習を調べた。さらに、生徒たちの第一言語を測定するために、翻訳というタクスを使用してみた。最後には、数人の生徒たちを選んで、インタビューもした。

生徒たちは英語と華語を第一言語として学習したが、第四章の結果から示したように、生徒たちは英語と華語を使用する状況が会話の相手の人々や場面によって異なる。要するに、学校と家庭での「第一言語」は異なると言える。言語評価から見ると、生徒たちは英語での読むことと書くことに能力があり、これらは華語での読むことと書くことと比べれば簡単であると思われた。しかも、華語習得よりも英語習得に対する態度に肯定的なところが見られた。また、英

語と華語を習得するモチベーションはかなり高いが、英語習得の場合は華語よりもやや高くなった。

研究対象であった SAP の生徒たちは、SILL の結果から見ると、他の学習戦略と比較して “compensation strategies” が一般的に使用されたようである。英語だけではなく華語を一番精通しての言語 (most familiar language) だと言った生徒たちは、“compensation strategies” の使用も報告した。一般に仮定されているように、翻訳のタスクで L2 (第二言語) → L1 (第一言語) は L1 → L2 より簡単であるとする、何語から何語への翻訳のタスクを生徒たちが選ぶかによって、どの言語が L1、つまり生徒の一番精通している言語であるかがわかるであろう。そのため、生徒たちに翻訳のタスクを与えた。結果によると、家庭言語及び一番精通している言語が華語であると言った 4 人の生徒たちは、華語のテキストを読んで、それを英語で翻訳することのほうを好んだようである。これは先の仮定と異なるといえるが、むしろその結果は社会的な要素から影響されたといえる。これについては、第 5 章で詳しく分析した。しかし、翻訳のタスクの次に、言語学習戦略の使用についてさらに理解するために、生徒たちをインタビューした。その社会的な要素も第 5 章で指摘した。

第 5 章では、言語学習戦略に影響を与える三つの社会的な要素を論じた。それは、(1)シンガポールの教育制度、(2)英語と華語の言語地位、(3)能力主義である。言語学習戦略のパターンについて、選ばれた 12 人の生徒たちは、次の戦略を使用した。つまり、“practice writing systems” (cognitive strategy), “self-evaluating” (metacognitive strategy) と “asking for clarification” (social strategy) である。明らかに、英語は一般的に生徒たちの優勢言語 (dominant language) になっている。これは華語が一番精通しての言語 (most familiar language) だと言った生徒たちも同様である。12 人の生徒たちの言語背景、言語選択、“compensation strategies” における SILL の点数については、第 5 章でも議論した。これは翻訳のタスクに関する仮定や「一番精通している言語」の意味を論じるためである。結論としては、これらの SAP の生徒たちは英語と華語を第一言語として学習したが、シンガポールにおける社会的な要因があつて、

英語が優勢言語として使用されていることがわかる。本論文では“compensation strategies”の使用率（Frequency use）が高いということについて、むしろ生徒たちの2言語能力と関係があると推測した。しかし、あまり頻繁に“compensation strategies”を使用すると、言語習得に対して、上達することを妨げる可能性もあると思う。したがって、場合によっては、「効果的なバイリンガリズム」を達成することが困難になると指摘した。